



## 世界の供給、需要、価格見通し

2020年4月14日～15日 USSEC 主催グローバルデジタル会議におけるトーマス・ミルケ氏プレゼンテーションおよび状況報告書

ISTA ミルケ社は 1958 創立、油糧種子、植物油、動物性脂肪、油粕の独立世界規模リサーチと市場分析で、民間の権威として指導的立場を築いてきた。当社および提供するサービスについての詳細はウェブサイト参照 [www.oilworld.biz](http://www.oilworld.biz)

予測および分析は取締役社長トーマス・ミルケ氏による。電話番号+49 40 76105021.

皆さん、

油糧種子、油脂や脂肪、油粕の供給、需要、価格の見通しを予測するにあたり、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)パンデミックにより非常に不確実性の高い現在の状況抜きに行くことはできません。コロナウイルスはあらゆる所に広がっています。世界中の半分以上が何らかの形でロックダウンもしくは政府による制限の影響を受けています。世界経済へのダメージは大きく、倒産を防ぎ、貧困者を支援するために大きな尽力が必要です。

農業セクターへの影響は、部分的に反対のところもあります。植物油は暴落するエネルギーセクターによる弱気な波及効果の影響をまともに受けています。原油価格は過去 3 ヶ月で 60% 以上急落しました。主な原因はサウジアラビアとロシア間の価格戦争で、部分的には多くの国々で燃料需要が減少した(ロックダウンや旅行制限の結果)ためです。さらに多くの国々で食糧の需要が減りました。

しかし、油粕の価格は、通常なら世界の大豆ミール輸出の 75% 近くを占める南米の輸出の遅れによる供給ボトルネックの不安のため、回復しました。

これからの何週間に向け、多くの不確定要素があります。COVID-19 を食い止めるために課せられた制限策により、流通管理はどの程度まで影響を受けるでしょうか。どの程度まで現場作業が遅れるでしょうか、すなわち、南米の油糧種子や穀物の収穫や南米および中米の果物の収穫に関しての問題です。4 月や 5 月の油糧種子や穀物の植え付けに影響が出るでしょうか。

**世界の油糧 種子の見通し**の特徴は、増大しつつある大豆の重要性です。過去 30 年の間に世界の大豆輸入量は 10 年ごとに倍増しました。しかし、昨シーズンは何度か価格崩壊が起こりました。主に中国で、1) アフリカ豚熱(豚の頭数と豚肉生産を大きく減少させました)と 2) 米国と中国の貿易戦争、によるものです。2018 年 10 月から 2019 年 9 月で中国の大豆輸入は 1,150 万 T 急落し、大豆クラッシュは 1,020 万トンの減少でした。

しかし、今シーズンの上半期に、大豆ミール需要上昇を満たすため、中国の大豆クラッシュは大きく回復しました。2019 年 10 月から 2020 年 9 月の予想では、中国の大豆輸入は 9,100 万 T で、うち 5,800 万トンがブラジルから、そして 2,100 万トンが米国からとなります。3 月と 4 月で、中国の要求はほとんどブラジル産大豆で満たされました。最近ブラジルの輸出業者と中国の輸入業者の双方が(起こるかもしれない)コロナによる制限が輸出を遅らせる前に輸送を最大限にしようと努力してきました。

ブラジルの大豆在庫は昨年より 4 月末で 4~500 万トン下がると予想しています。5 月または 6 月以降ブラジルの輸出が 1 年前のレベルより下がる可能性が高いので、中国は米国大豆への依存を高め、購入を再会するでしょう。

注目すべき変動要因は南米の最終的な大豆生産量です。ブラジル南部(リオグランデ・ド・スル州)とアルゼンチン中部での日照りによるマイナス影響の結果、ここ4~5週間の収穫予想は縮小しています。現時点で、南米の大豆生産はわずかに増大する、との見通しがまだありますが、1年前と変化なし、またはわずかに下がるかも知れない、という可能性を排除することはできません。ブラジルに対し、現在私たちの予想では12,250万トン(昨年12,080万トン)、アルゼンチンは5,100万トン(5,360万)、パラグアイは1,070万トン(870万)の収穫を予想しています。民間の現地の予想では、ブラジルとアルゼンチンを低くしているところもあります。

2019年10月~2020年9月に世界の大豆クラッシュは800万トン増加し、大豆ミール生産は650万トン増加すると予測しています。

米国では、南米からの輸出が事実上遅れている、または遅れるかもしれない、という恐れから大豆ミールと油の輸出増加が近頃上記の大豆クラッシュ予想に拍車をかけています。対照的に米国の大豆輸出は近頃予想を下回っていますが、ブラジル産の輸出が遅れ始めれば、5月以降は回復に向かう見込みです。

2019年9月~2020年8月に米国の大豆クラッシュは記録的な5,830万トンに伸びますが、輸出は4,830万トンに落ち込んだままになりそうです。2020年8月末時点で、米国の在庫は1,230万トンに減り、世界の在庫は9,620万Tとの予想が出ています。昨年記録的な在庫量となった2,470万トンと1億1,050万トンよりそれぞれ減っています。

世界の大豆在庫は依然として十分な量で、今年の米国中西部の気候がほぼ平常ならば2020年~2021年に供給不安は起こらない見込みです。

3月植え付け予定報告書では、ほとんどの米国の農家はトウモロコシを選ぶと表明していました。しかし、近年のエタノール使用と生産の崩壊、トウモロコシ価格の下落を考慮すると、多くの農家は部分的に大豆へ移行するかも知れません。

**その他の油糧種子:** 世界のヒマワリ種子生産は著しく増加し、今季は記録的な5,540万トンに達しました。最大の増加はロシアとウクライナでした。ロシアの2020年4月~5月の輸出禁止例が種子と油の価格変動に影響を与えています。

菜種とキャノーラの作付と収穫は過去6年ほとんど下降傾向でした。世界の生産はわずか6,090万トンに落ち、過去10年以上で最低でした。最も減少したのは欧州連合と中国でした。

最近のオイルワールド社予想では、**世界の17の油脂と脂肪生産は1年前に比べ、2019年~2020年に1,000万トンの減少**です。これは疑いもなく異常事態であり、過去10年間の平均720万トンの成長と著しい対照を見せています。厳しい供給見通しは、パーム油に関する出来事が主な原因で、一部は菜種油です。

**世界のパーム油生産は2019年10月~2020年9月に1年前より少なくとも200万T、おそらく250万~300万トン減少**する可能性があります。これは過去10季の毎年の成長平均である325万トンと比較しての数字です。生産国の幾つかで収穫量は減る傾向です。さらにCOVID-19拡大を遅らせるための制限策が取られています。この中には地域により収穫や加工の一時的停止命令もあります。マレーシアでは、プランテーションの人手不足は、政府が旅行制限を課しており、労働者雇用が一層難しくなるため、2020年にさらに深刻なものとなりつつあります。したがって、生産量がさらに生産可能量を下回る可能性もあります。

しかし、需要の減少が厳しい供給環境を和らげています。パーム油消費は予想をかなり下回る模様で、2019年～2020年は1年前より減少する見込みです。一部は食品セクター（主にインドですが、他国もあり）ですが、主にエネルギーセクターで減少します。

60%以上の原油価格低下により、過去3ヶ月のバイオディーゼル価格の競争力は大きく悪化しました。また、軽油消費全体も旅行制限を含むロックダウンが敷かれている多くの国々で低下しました。

2020 暦年のバイオディーゼルと HVO 生産は欧州連合、ブラジル、アルゼンチン、米国、インドネシア、マレーシア、シンガポールで予想を大きく下回るでしょう。当社の世界生産予想を400万トンほど下方修正し、2009年の1,600万トンから2019年の1月から12月間の4,550万トンという急上昇に終止符を打ちました。

現時点で、世界の油糧種子、植物油、油粕の在庫は1年前から下がっています。大豆の在庫は十分あります。

植物油は比較的厳しい状況ですが、その結果から来る緊迫感は近年のパーム油輸入とインドや中国、その他の国々の消費の低下、バイオ燃料需要の減少で和らげられています。

しかし、市場関係者は等式の供給と需要の変化を細かく監視しています。少しでも供給が滞ったり、主要国（主に南米）の輸出が遅れたりすれば、価格にすぐ反映される可能性があります。大豆ミールも同様で、南米の大豆クラッシュや大豆ミールの輸出が予想を下回れば価格が上がり始めることでしょう。

トーマス・ミールケ

ドイツ、ハンブルグ、2020年4月11日

<Thomas.Mielke@oilworld.de>

© 著作権 2020年 ISTA ミールケ社。

オイルワールド—独立世界規模分析およびリサーチ

本サービスによる情報および分析は信頼性があると考えられる。内容の正確さと完全性のために細心の注意を払っている。但し、当社は、この正確さや完全性、当社の予測や意見の正確さに対するいかなる責任、または購読者の使用によるいかなる責任も負わないこととする。

トーマス・ミールケ—ISTA ミールケ社 . Langenberg 25. 21077 Hamburg. Germanv